

## 県立病院事業評価委員会からの評価・提言内容

平成28年8月31日

県立病院事業評価委員会

委員から出された評価・提言の概要は、次のとおりです。

### 1 平成27年度県立病院事業の実施状況について（資料1 関係）

純損益では黒字であったが、経常収支は赤字となっている。今後とも、収益増につながる取組をさらに充実させてほしい。

収益がプラスに転じたことは、各病院が地道に努力してきた成果であり、評価できる。収益確保の面からも、後発医薬品の使用は大事と思うので、積極的に啓発していただきたい。

### 2 平成28年度の県立病院の取組について（資料2 関係）

後発医薬品の一層の使用促進を図るためには、患者側だけでなく、医師側の意識もさらに高める必要がある。

今後導入される予定の新専門医制度では、専門医を確保する対策として、若い医師の研究や学会発表などに配慮した職場環境づくりに力を入れてほしい。

県立病院には、各大学と連携し、人事交流を行いながら、全体として宮崎県の医師を育てていくことも考えていただきたい。

### 3 県立宮崎病院再整備の進捗状況について（資料3 関係）

感染症対策を考えた場合、個室が多いほうがよい。特に、トイレの配置が重要となってくるので、院内のICT（感染対策チーム）とも配置について検討してほしい。

介護が必要な状態で亡くなる方も増えてきており、病院での徘徊、転倒や骨折などの事故の増加が懸念される。新病院では、このような対応がますます必要になると思われるので、十分な対策を講じてほしい。